

記　事

◎第 10 回理事会（昭.30.2.15）出席者：青木会長、江里口、飯田、中路、最上、後藤、星埜、上野、篠原の各理事、中川書記長、朝倉、持箸、堀内の各主任書記、議事：1) 1 月中の行事その他報告、2) 海岸工学委員会設置については上野、篠原両担当理事が委員会構成を研究することとし、独立採算方針の下に了承、3) 溶接鉄道橋設計示方書委員会設置について了承、4) 夏季講習会について、5) プレストレストコンクリート設計施工指針及び解説について、6) 昭和 29 年度決算見込み及び昭和 30 年度予算案について。

◎各種委員会

1. 臨時編集委員会（昭.30.2.8）出席者：最上委員長、後藤副委員長、丸安、三上、鈴木、林、久保、西畠、山本の各委員、中川書記長、岡本編集部員。議事：土木賞委員から提案された 2 件について審議の結果、原案によることに決定。

2. 第 9 回編集委員会（昭.30.2.23）出席者：最上、後藤正副委員長、矢野 関西地方委員、小松原、林、大宮、斎藤、吉川、鈴木、坂本、西畠各委員、中川書記長、徳平編集幹事、岡本編集部員。協議事項：1) 会誌および論文集進歩状況報告、2) 投稿論文および新規受付論文審査委員の決定、3) 土木賞推薦について最上委員長より報告、4) 依頼原稿について、5) 討議依頼先の決定、6) 40 卷 4 号（増大号）登載論文を次のとおり予定した。

橋 好茂・大西英雄：安治川サイロにおけるスライディングフォームの実施について、谷本喜一：杭打基礎の耐震性に関する基礎的研究、住友 彰：トンネル工事に応用した薬液注入、神山 一：鉄筋コンクリートトボリのひびわれ、水越達雄：ダムコンクリートに使用するフライアッシュについて、荒木謙一：砂の粒度からその単位容積重量およびモルタルに及ぼす影響に関する研究、市原松平：剛性載荷板荷重による砂層中の鉛直增加土圧の分布について、梶原光久：層状軟弱地盤の圧密沈下と近似計算法。

3. 第 9 回抄録委員会（昭.30.2.8）出席者：左合委員長、林、松本、平嶋、渡辺（隆）、山口、金屋敷の各委員、千秋幹事、徳平編集幹事、岡本編集部員、協議事項：1) 40 卷 3 号登載用として 4 編を予定（割当 5 ページ）、2) 繼越 15 編、新規 8 編について協議した。

各委員、千秋幹事、徳平編集幹事、岡本編集部員、協議事項：1) 40 卷 3 号登載用として 4 編を予定（割当 5 ページ）、2) 繼越 15 編、新規 8 編について協議した。

4. 学会誌編集小委員会（昭.30.2.8）出席者：後藤副委員長、久保委員、徳平編集幹事、岡本編集部員。協議事項：40 卷 3 号編集について最終的協議打合せを行つた（64 ページ）。

5. 第 22 回コンクリート鉄道構造物設計基準委員会（昭.30.2.3）出席者：吉田委員長、高橋、最上、丸安、白石、杉木、池原、横山、深谷、田村、川口の各委員、議事：第 21～第 23 条逐条審議。第 23 回同委員会（昭.30.2.17）出席者：吉田委員長、沼田、最上、平井の各委員、山内、白石、杉木、横山、深谷、田村、川口の各幹事、議事：第 3 原案の第 1～第 8 条逐条審議。第 24 回同委員会（昭.30.2.25）出席者：吉田委員長、本間、平井各委員、白石、杉木、横山、田村、川口の各幹事、議事：第 9～第 14 条逐条審議。

6. 第 33 回プレストレスト コンクリート委員会（昭.30.2.11）出席者：吉田委員長、沼田、国分、田原、山田、伊東、宮崎、海上（代白木）、渡辺（代木村）、齋島、木村（代星野）、山崎、三浦、菅原、深谷、田村、川口の各委員、議事：第 39～第 44 条逐条審議及び第 3 読会の進行方法について。第 34 回同委員会（昭.30.2.25）出席者：吉田委員長、国分、田原、山田、川崎（代宮崎）、猪股、海上（代白木）、齋島、渡辺（代星野）、村田、山崎、樋口、菅原、田村、川口の各委員、議事：第 41 条、第 42 条及び第 45～第 49 条逐条審議。

7. 第 3 回海難防止港湾施設委員会（昭.30.2.7）出席者：鈴木委員長、鮫島、鳩野、岡部、黒田（代坂本）、菊池の各委員、久保、佐藤両幹事、中川書記長、持箸主任、議事：1) 中間報告案について JSC での摸様を菊池委員から報告、2) その結果に基づいて委員会結論として報告書をまとめた、3) JSC 海難防止委員会に鈴木、鮫島、鳩野の 3 氏を特別委員に推薦すること。

8. 第5回応用力学連合講演会運営委員会（昭.30.1.25）

2.8) 出席者：倉西（機械学会），本間委員長，星埜，内田，後藤，久保，中川，捧箸，堀内（土木学会），佐貫，林，近藤，田中（航空学会），議事：本年9月開催の講演会の次第その他について協議した。

9. 第2回土木賞委員会（昭.30.2.22）出席者：吉田委員長，伊藤，岡本，佐藤，坂本（代森），当山，沼田，広瀬，福田，本間，松村，荒井，矢野，庄司，藤井，最上の各委員，後藤，斎藤，久保の各編集委員，中川書記長，徳平，挿箸の各主任，議事：1) 最上編集委員長から編集委員会において土木賞候補論文選定の経緯説明，2) 本委員会委員から推薦されたものも編集委員会で審議することを確認，3) 最上委員推薦理由書を説明し，詳細質疑に対し，担当委員が説明，4) 各委員は3月12日までに投票すること。

◎そ の 他**1. 日本工学会第7回大会（昭和31年開催予定）**

に協力方同会から依頼があつた。1) 会期：記念行事は4月に開催するが他は特に会期は定めない。2) 工学会直営の記念行事は講演，映画，懇親会，見学会，展示会，3) 各学協会の講演大会，見学会等は昭和31年内開催時期にかかわらず日本工学会大会の部会行事とする。4) ラジオ新聞を利用しまたポスター等を活用する，5) 所要経費を各学協会が分担する(2箇年分会費相当額)。

2. PBレポート懇談会（昭.30.2.18）出席者：国立国会図書館及び工学関係学協会の20数名，土木学会から星埜理事出席，議事：国立国会図書館では1億余円の国費を投じてPBレポートの大半をマイクロフィルムで保管している。大阪，名古屋にはフォトスタッフとして備付けているがその他の地方都市にも備付ける予定である。東京では当分マイクロフィルムのまま利用し，その複写をやつているがさらに利用を広くするため，1) 学協会を通じて広報宣伝する，2) フィルムの形で貸出をする，3) 外部団体を作つて利用を便にしたい，等について懇談した。

支 部 だ よ り**1. 北海道支部 第2回役員会（昭.29.12.15）**出

席者：各役員，議事：1) 今年度前半期事業報告，2) 今年度後半期事業計画 a) 講習会，b) 研究発表会，c) 技術資料，3) 支部役員人事について，商議員倉田宗章，中村俊雄，安藤道夫，丸島正男，西島周造の5氏転勤により退任，商議員真島恭雄（北大工学部），内藤勝（釧路土木現業所長）の両氏が兼任，新任を委嘱された。第3回講演会（昭.30.1.26）青函トンネルについてと題し国鉄北海道総支配人大石重成氏の講演があつた。支部講習会（昭.30.2.11～12）参加者：200名，講師及び演題は次のとおり。

道路建設最近の趨勢（板倉忠三），アスファルト系の舗装について（武山広志），凍土の現象とその被害について（眞井耕象），道路凍土対策について（高橋敏五郎），波と漂砂（真島恭雄），河川改修計画について（久世秀明），洪水量の算出について（大坪喜久太郎），橋梁の振動（猪瀬寧雄），橋梁構造物の測定について（前田幸雄）

2. 東北支部 幹事小林元柳君建設省に転任のため後任に小沼敬八君を依嘱した。

3. 関西支部 第3回土木工事研究会（昭.30.2.14）

参加者：85名，鉄道工事と保線研究会とし講演題目及び講師は次のとおり，

- 地下鉄の防振タイプレートについて（虎瀬敏次），
- 鶴橋駅の改良工事について（柳瀬珠郎），3. 動搖試験による軌道の統計的評価（水野昭典），4. 和歌山港線建設工事について（岡本和夫），5. 高低両周波による電気式防腐枕木の研究（谷征一郎，志茂山保夫）

4. 西部支部 冬期研究発表会（昭.30.1.29 大分市町村会館において）参加人員約150名，非常に盛会で有意義であつたが講演題目及び講演者は次のとおりである。

水力発電所水槽に自動決済板を設置した例について（加戸敏勝），門司港田ノ浦岸壁の基礎工について（原田修），固有振動周期の変化（中村清），単層連続ラーメンの一解法（塙本正文），トンネルの防水工法としての薬液注入（住友彰，桑田博文），砂の表面乾燥飽和状態について（篠原謹爾，薄慶治），石関瀬戸の潮流について（岡田稔秋），浮流流砂が流れに及ぼす影響について（椿東一郎），大分における降雨特性について（石黒政

儀), ローゼ鋼橋(日向大橋)の振動について(山崎徳也, 下川浩資), 図解法による背水曲線の計算(吉高益男), 伊之浦橋(西海橋)のアーチ主構の閉合方式について(村上永一, 吉田巖), 水で飽和した土の振動圧力(松尾春雄, 大原資生), 河口感潮部における海水浸入状態の一考察(安藤毅), 併用軌道の構造について(大津繁雄), 鉄筋コンクリート橋のT形パリ並びに矩形パリの経済的断面設計の一考察(井月夫), 土砂のせん断試験について(水野高明, 徳光善治), 上椎葉ダムの余水吐について(直村徳三), 古城豊坑井筒沈下について(日高敏明, 大内正), 洞海湾防波堤工事について(松尾安), 変断面剛構の解法(石川時信), 上椎葉ダムコンクリート用砕砂について(小野匡美)。

第12回幹事会(昭.30.2.5) 出席者: 幹事長以下各幹事, 議事: 1) 支部総会を2月12日電気ビルで開催のこと, 2) 学会総会並びに第11回年次学術講演会に対する準備委員会の発足, 3) 西日本水害調査研究委員会の次年度継続について, 4) 冬季研究発表会の経過報告並びに会計報告, 5) その他。支部総会(昭.30.2.12) 1) 映画, 2) 支部長挨拶, 議事: 1) 昭和29年度事業報告及び会計報告, 2) 役員改選, 3) 新支部長挨拶, 支部役員改選報告。支部長: 伊藤剛(建設省九州地建局長), 常議員: 山崎徳也(九大助教授), 平田茂憲(九電土木部計画課長), 根来幸次郎(国鉄西部副支配人, 留任)

お 願 い

学会40周年記念号(39巻12号)に学制改革とともになう土木工学教育に関する報告を京大石原教授に御執筆を願いました(土木学会40周年記念 39巻12号 p.769~773)。

資料を集めることは編集部もたづきわりましたが、同資料には気づかざる落ち、誤りがあるかも知れません。会員諸兄においてお気づきの点があれば編集部あてお知らせ下されば幸甚でございます。

(編集部)

昭和30年2月分入退会報告(昭.30.2.1~2.28)

- | | |
|--------|----------------------------|
| 1. 入 会 | 118名(特3級1, 正22, 准35, 学生60) |
| 2. 退 会 | 6名(正2, 准4) |
| 3. 転 格 | 2名(学生より准へ2) |

会員現在数(30.2.28現在)

名譽員	賛助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生員	合計	増加数
20	16		33	76	151	5378	6190	1705	13569	112

昭和29年3月10日印刷 土木学会誌 第40巻 第3号 定価100円
昭和29年3月15日発行

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川一美
印 刷 者 東京都港区赤坂溜池5番地 大沼正吉
印 刷 所 東京都港区赤坂溜池5番地 株式会社技報堂

東京中央郵便局区内 千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20) 3945番
4078番

発行所 社団 法人 土木学会 振替 東京 16828番